

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成20年度病害虫発生予察注意報第6号について
平成20年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

平成20年度病害虫発生予察注意報第6号

平成21年 3月24日

宮 崎 県

- 病害虫名 灰色かび病
作物名 果菜類(トマト、イチゴ)
1 発生地域 県下全域
2 発生時期 本圃収穫期
3 発生量 多
4 注意報の根拠

1) トマト

トマト果実での発生状況は、発生面積率41.6%(平成19.2%)、発病果率1.5%(平成1.3%)で、ともに平成よりやや多であるが、茎葉での発生状況は、発生面積率91.6%(平成20.7%)、発病株率12.8%(平成1.3%)で、ともに平成より多となっている。(図1~4)

2) イチゴ

イチゴ果実での発生状況は、発生面積率30.8%(平成6.4%)、発病果率1.8%(平成0.2%)で、ともに平成より多である。(図5, 6)

発生面積率、発病果率とも、本年の数値は最近10年間で最も高い。

- 3) 1月、2月に施設果菜類の防除情報を発表しているが、1月下旬以降の高夜温と曇雨天もあり発生は更に増加しており、菌密度は非常に高い状況にあると思われる。

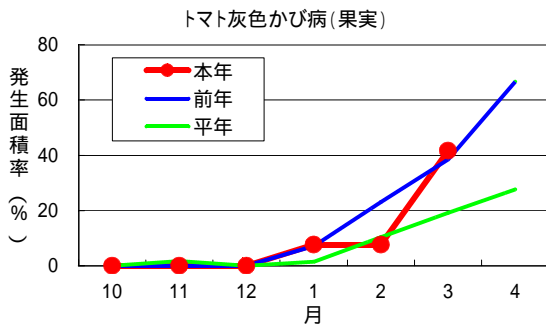


図1 トマト果実での発生面積率の推移

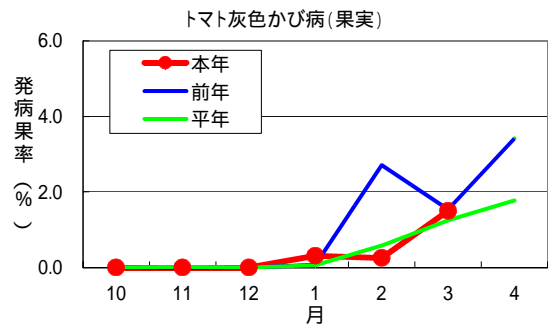


図2 トマトでの発病果率の推移

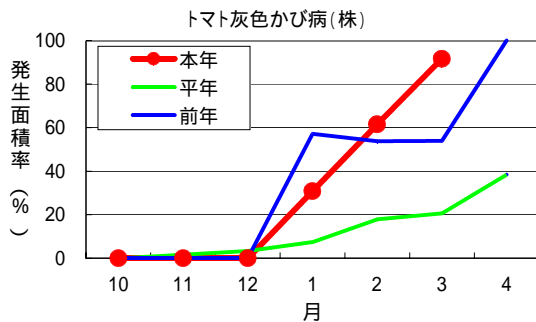


図3 トマト茎葉での発生面積率の推移

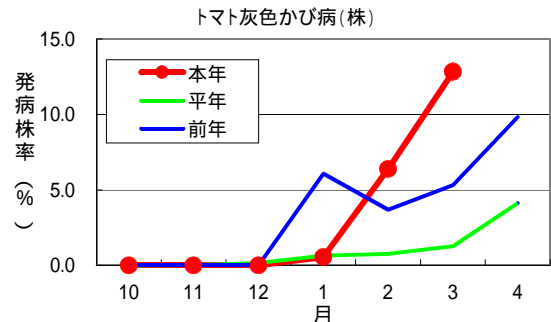


図4 トマトでの発病株率の推移

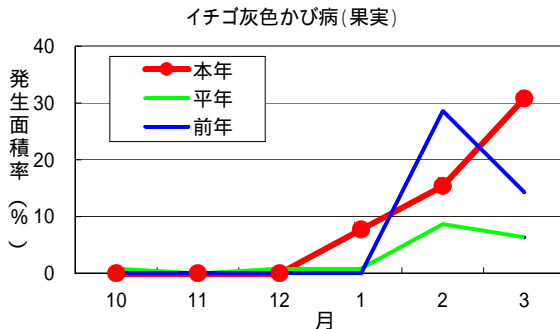


図5 イチゴ果実での発生面積率の推移

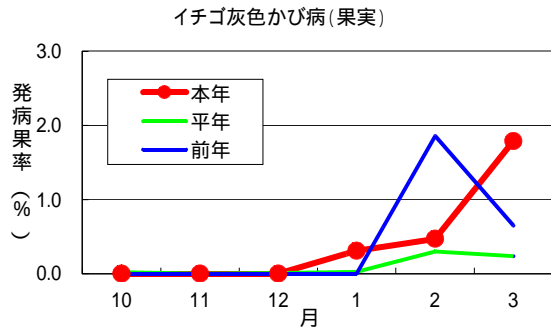


図6 イチゴでの発病果率の推移

5 防除上の注意

- 1) 灰色かび病菌の侵入及び発病は最適温度が15～23 と比較的低温で、多湿条件で多くなることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。
- 2) 発病した果実や花卉、収穫後の果房、茎葉等は重要な伝染源になるので、こまめに取り除いてほ場外に持ち出し、適切に処分する。

トマト果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあり、商品価値を著しく落とすので注意を要する。

- 3) 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- 4) 予防的な防除の場合はボトキラーやインプレッションなどの微生物農薬の利用が考えられるが、発生後には化学農薬の使用・組み合わせ防除が必要となり、特に多発が予想される場合には化学農薬の連続防除を実施し、菌密度を減らす必要がある。
- 5) 時期的にも加温機の稼働時間が短くなり、果実等が結露しやすくなるので、送風機を作動させるなどの管理を行う。
- 6) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- 7) その他詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会する。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp